

ellipse

平成20年

1月

[エリプス]

TOPICS

徽音堂物語 8

徽音堂のキンモクセイに寄せて

思いを紡ぐ 第2回

～チャントソン・インタヴォンさん、夢の実現に向かって～

楕円(ellipse)には焦点がふたつあります。男性中心の社会から、女性と男性がそれぞれに中心(焦点)となる社会を目指すという思いを込めて、誌名を「エリプス」と名づけました。



ワ・タ・シ

深津知寿 FUKATSU, Chizu イラストレーター
東京生まれ。1988年、お茶の水女子大学文教育学部地理学科卒業。在学中に、『週刊朝日』誌上にて「山藤章二の似顔絵塾」特待生となる。広告代理店勤務を経て、1990年より作家活動を開始。書籍装画、CDジャケットなど多く手がける一方、エッセイ執筆、壁画制作などの活動を展開している。



特定非営利活動法人
お茶の水学術事業会

REPORT

ワークショップのご報告
～講師幹旋事業

INFORMATION

イベント情報

新刊書紹介『パリに生きた科学者 湯浅年子の肖像』
「女性のための起業入門セミナー」参加者募集!

ぎ いん どう
徽音堂物語 8

徽音堂のキンモクセイに寄せて



お茶の水学術事業会会員の上柳 富美子様より、「昨年の8月末の学会で徽音堂に一日おりましたので、いろいろなことが思い出されて…」と、徽音堂にまつわる思い出をお寄せいただきました。「昭和26年家政科育児保健卒業の一同」様より寄贈された貴重な写真とあわせてご紹介いたします。

※「育児保健」というのは、戦後、家政科を被服と食物専攻に分ける際に「食物」では文部省の許可がでなかったためにつけられた名称で、女高師がなくなる昭和27年まで使われたそうです。



徽音堂のキンモクセイに寄せて

東京女子高等師範学校昭和26年家政科卒業 上柳 富美子

2007年8月30日に、美しく改修された徽音堂で日本調理科学会の大会と創立40周年の記念式典がもたれました。

学問的に未開拓の分野であった調理を「学」として方向づけられ、その基礎を築かれたのが、母校の恩師松元文子先生でした。

今回の学会では、研究発表が196件もあり、調理科学は今や食物学研究に必須な学問となり、松元先生の教え子たちがその中核となって活躍されている姿をみることで感慨深いものがありました。

記念シンポジウムは「いま食べ物に求められていること—調理のススメ」と題して、多角的な視座から4人の演者による興味深い講演があり、一階の座席がいっぱいになるほどの盛会でした。

総会が始まってシンポジウムが終るまでの数時間を徽音堂で過ごしましたが、「エリプス第12号」に記載されているとおり、テーブル付きの快適な椅子は、メモも取りやすく、長時間座つ

ていても疲れることなく、新しい徽音堂の設備の良さを体験することが出来たのも嬉しいことでした。

講壇の正面に掲げられている昔のままの「徽音堂」と書かれた額を見つめていると、在学時代の思い出がいろいろとよみがえってきました。

初めてこの額を見上げたのは1947年4月の入学式でした。戦争が終って2年目、東京は焼け跡に闇市が並び、食糧も乏しく、私たちはお腹をすかせながらも、新憲法の発布とあいまって、男女平等の世の中で自由に勉強できるという希望を胸に、全国から集まってきたのです。

次にこの講堂での思い出は、文科の学生達によって演じられた歌舞伎の「鳴神」の劇でした。戦時体制の中で育ってきた私は、ここで初めて、こんなすばらしい芸術があったのだという驚きと感動を与えられたのです。

3つ目は、1949年11月5日に、東京女高師創立75周年とお茶の水女子大学開学記念式が皇后陛下を迎えてここで挙



◀ 1949年11月5日 東京女子高等師範学校創立75周年・お茶の水女子大学開学記念式典



◀ 学会の様子



▲キンモクセイ 1950年 土門拳氏撮影

されたことです。当日は女高師の学生だけでなく、附属の高校から幼稚園までの生徒も参加し、徽音堂がいっぱいの人であふれるばかりでした。在学生代表の祝辞があり、その終わりの学生から園児まで含めた「学生・生徒・児童・園児総代」の言葉が印象深く心に残っています。

由緒ある「徽音堂」の額と共に忘れられないのは、玄関前の1本の大きなキンモクセイの木です。

高く枝を伸ばし、幹太く凛として立つ木の姿。秋には橙黄色の花をつけ、ふくいくとした香りを周囲に放つやさしさ。初めての出会いから、この木が母校のシンボルとして私の心に刻まれました。

何年かして再会した時、木のたたずまいの変化に驚き、何故だろうと気がかりになっていましたが、広報誌「Tea Times」に清水碩先生が、『大きなキンモクセイが今から20年程前、春先の大雪の重さに耐えかねて縦にさけてしまった。それを蘇生させるために若いキンモクセイを接木することで傷ついた老木を生き返らせた。』と、記されていることから事情を知り納得できました。

昨春、私たちのクラスは「出会いから60年」という記念の

クラス会を持ちました。

その折、思い出の写真を持ち寄りましたが、その中で卒業アルバムの写真(土門拳さんに依頼して撮っていただいた)が思い出深く、特に本館正面のキンモクセイの写真に皆の関心が集まりました。



▲現在のキンモクセイのたたずまい
-2006年に「みがかずば」の歌碑が建てられた

この写真は、土門拳さんが校舎の玄関前にカメラを据え、校門に向かって撮られたものですが、たまたま小雨模様の日であったので、風格のある大きな樹が水たまりに映っている景観の美しさに魅せられます。写真を拡大して眺めると、遠くの校門を出る学生と、入ってくる学生の一人一人の姿がしっかりと捉えられていて、さすがに一流写真家の作品と感銘を与られます。

クラス会(昭和26年家政科育児保健卒業)の皆が一致して、「これは母校の宝もの。私たちだけの思い出ではなく、みんなに知って頂きたいから大学に寄贈しましょう。」ということになりました。

思いを紡ぐ 第2回

～ チャンタソン・インタヴォンさん、夢の実現に向かって～



前回のインタビューでは、『ラオスのこども』や職業訓練センター、子ども文化センター（CCC）設立の経緯と活動について伺いました。今回は、その後の『ラオスのこども』の様子、そしてチャンタソンさんの学校作りにかける熱い思いをご紹介します。

🌸 ラオスでの記念式典 🌸

2007年8月4日に『ラオスのこども』創立25周年記念式典が行われ、私もラオスに行きました。滞在中は式典の準備等で、ほぼ毎日朝の8時から夜の11時まで働き通していましたが、とても充実した時間を過ごすことができました。

式典には、ラオスの教育省副大臣や文化省の局長、国立図書館長などをはじめ、子ども、親、教師、そしてラオスの作家たち等、1000人程が集まり、素敵な時間を共有することができました。約100人の子どもたちが中心となって、400年も前のラオス語の詩をラップ調で暗唱したり、40～50年前の小学校の教科書に載っている美しい詩を民謡調に詠んだり、ビートルズの曲に合わせて歌ったりして、会場は一体感と充実感に包まれました。子どもたちは、一人一人が主役として、歌ったり踊ったり、本当に楽しそうでした。上手な子どもだけが前に出て注目されるのとは異なり、皆で取り組むことの楽しさを味わえる良い機会にもなったと思います。

ラオスには、日本のように合唱コンクールや体育祭といった催しがありません。“いつかきっとラオスでも”という思いが、この式典を機に一層強くなりました。

🌸 日本とラオスの仲間と家族に支えられて 🌸

この式典が人々の心に残るものとなったのは、事務所のスタッ

フだけではなく、現地の協力者たちのおかげです。良い友人や理解者に恵まれたからこそ、『ラオスのこども』は25年ものあいだ信念を曲げず、活動を続けてこられたのだと思っています。

今回子どもたちをまとめてくれたのは、『ラオスのこども』現地事務所代表の息子さんでした。また、式典に参加したラオス国立図書館の館長は、カナダ留学を終え、婚約者のいる日本へ立ち寄った際に知り合い、30年来の付き合いになります。

前号でもお話ししたCCCは、作家で、文化省の文芸雑誌の編集者でもある友人のダラさんに文化省と交渉してもらい、古い校舎に子どもたちが集まれるようにしたのが始まりでした。それ以来、彼女はヴィエンチャン以外に作ったCCCの活動・運営のキーパーソンとなりました。自らも7人の子どもの母親であり、長年小学校教員を務めた経験のある女性を中心に読書推進活動を進めたラオス北方の県は、蔵書が充実し、子どもたちの読書活動が最も盛んだと言われています。

偶然ですが、私の仲間たちには名前にお月様やお星様が入っている人が多いのです。わたしの名前の「チャンター」も「お月さま」。「面白い共通点だね。」と話しています。

それから、ラオスに住む家族も、私にとってかけがえのない存在です。子どもの頃、わたしの家には常に誰かしら下宿人がいて、家族同然に過ごしました。ラオスでは病人は外で亡くなったら家には帰れないのですが、両親はそういう人たちのお葬式を出してあげたり、老人の面倒をみたりと、困っている人たちに手を差し伸べられる人でした。祖母も教育に理解のある懐の深い人で、お坊さんに奨学金を工面し、インドへ修行に行かせていました。私が今日のような活動をしているのは、そんな家族の影響も大きいと思います。

今も両親は健在で、特に父は私の良き理解者です。娘の長年の目標である学校設立を実現させるために、日々老体（76歳）を酷使して奔走してくれています。そして、建築家の夫も、学

校の設計を快く引き受けてくれました。

理想の教育とは

ラオスに学校を作ることは、高校生の頃からのわたしの夢です。その第一歩として、学校建設用の土地を郊外に買い、1998年にホアイホン職業訓練センターを設立しました。2002年には、祖母の残してくれた家に、子どもから大人までが日本語と英語を学べる語学学校を作りました。

私の作る学校では、自分が住んでいる村や社会のことを考えられるような人々を育てたいのです。「農村開発に取り組む人材」、「教師として働く人材」、「社会や人のために活動できる人材」の育成を目指して、幼年期から専門学校や大学までの一貫教育を行いたいと考えています。そして、自分の仕事を自分で見つけ、作り出し、人々に伝えられるように、より専門性の高い職業訓練学校を併設したいと思います。

まずは、自分たちのアイデンティティを大切に、母国語であるラオス語や少数民族の言葉などをきちんと身に付ける。次に、国際人としての自覚を持ち、英語や日本語をはじめ、近隣諸国の言語であるタイ語やベトナム語、中国語等、外国の言葉や文化を学ぶ。わたしは、ラオスが自立した国となるための担い手を、この学校から社会に送り出したいのです。

教育の理念を同じくする世界中の仲間たちとこの理想を実現し、学校の運営を継続するためにも、授業料の導入が必要だと考えています。もちろん、ラオスの人々に支払えるような額にして、奨学金も設けます。それに、お金が無くて設備が整っていないからできないと言われるのは悔しいですから、教育の中味にも工夫を凝らします。教師の手作りの教材を使って、子どもひとりひとりに対応したプログラムを作りたいと考えています。

学校作りに向けて

この試みが成功すれば、今後の教育のモデルとなり、ラオスの教育の開放を更に進めることとなることでしょう。一日も早

くこの学校を作り、運営を軌道に乗せなくてはなりません。

そのためにまず、学校設立のための委員会を日本とラオスで立ち上げ、より多くの方に協力を呼びかけたいと思います。「チャントソン、早くしないと手伝えなくなっちゃうよ。」とラオスの仲間たちからも急がされているので、2008年中にはなんとか委員会を作り、より具体的な計画を立てて建設資金を募りたいと思います。

また、学校の教員にはラオスの教員養成学校で学んだ人々を積極的に採用したいのですが、大学については日本との人材交流をはかりたいと考えています。この点については、日本語学校や大学でお世話になった先生方、ユネスコアジア文化センター在職時に読書推進活動でお世話になった方々、ボランティア活動を一緒にしている仲間たちにも、協力をお願いしたいと思っています。

そして、学校建設のための資金とホアイホン職業訓練センターの運営費を作るために、センターの製品やラオスの織物を積極的に販売していきたいと考えています。2008年6月には横浜のシルク博物館でホアイホン職業訓練センターの10周年展、12月には沖縄の那覇で展示即売会が決まっています。色々な方のお力をおかりして、このような催しを日本各地で行うことができればと思っています。

この記事を読んで、わたしたちの活動に少しでも興味をお持ちになった方がいらっしゃいましたら、下記までご連絡をお願いいたします。ひとりでも多くの方のご協力やアイデアが必要です。どうぞよろしく願いいたします。

〒146-0082 東京都大田区池上1-5-15

FAX : 03-3751-6312

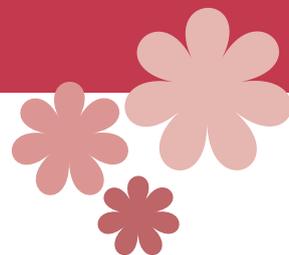
E-mail : CHANTHASON @ aol.com



ラオスでの記念式典の様様



学校用の土地



お茶の水女子大学 イベント情報

2008年2月以降にお茶の水女子大学で開催される各種イベントのお知らせです。詳細は、各主催者にお問い合わせください。

期日	イベント・講座名	参加費	備考
2008年2月16日(土) 10:00～12:00	幼児教育未来研究会 2月例会 テーマ：表現を楽しむ 事例提供：お茶の水女子大学附属幼稚園 助言：大戸美也子（お茶の水女子大学 チャイルドケアアンドエデュケーション）	無料 資料代をいただく場合があります。	【主催】お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科・東京学芸大学総合教育科学系教育学講座幼児教育学分野・東京学芸大学総合教育科学系生活科学講座家庭科教育学分野・東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター・お茶の水女子大学附属幼稚園・東京学芸大学附属幼稚園 【後援】文京区教育委員会 【会場】お茶の水女子大学附属幼稚園 【詳細・お申込み】子どもセンターのホームページからリンクできます。 http://www.kodomo.ocha.ac.jp
2008年2月16日(土) 14:30～17:00	ロマン派の音楽について —講義とピアノの実演—	2,000円	【主催】お茶の水女子大学 【会場】お茶の水女子大学文教育学部2号館 【お問合せ・お申込み】産学連携チーム公開講座担当 E-mail : k-kouza@cc.ocha.ac.jp Tel : 03-5978-5112 Fax : 03-5978-2732 http://www.ocha.ac.jp
2008年3月9日(日)	アフガニスタン映画祭		【主催】お茶の水女子大学開発途上国女子教育協力センター 【会場】お茶の水女子大学徽音堂 【お問合せ・お申込み】開発途上国女子教育協力センター Tel&Fax : 03-5978-5546 E-mail : mao@cc.oha.ac.jp
2008年4月10日(木) ～8月6日(水) 平日 18:30～20:00 土曜日 10:00～13:20 14:00～17:20	2008年度前期公開講座 化学・生物総合管理の再教育講座 (全27科目 / 1科目は90分授業で15回構成 / 科目選択自由)	無料	【主催】お茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター (LWWC) 【会場】お茶の水女子大学 一部の科目は共催機関 【お問合せ・お申込み】お茶の水女子大学「化学・生物総合管理の再教育講座」事務局 E-mail : koukai-q@cc.oha.ac.jp Tel : 03-5978-5096 Fax : 03-5978-5019 http://www.lwwc.ocha.ac.jp/saikyouiku/
2008年5月31日(土) 午後	第2回ホームカミングデー 化学科・桜化会 OUCA 講演会 講演会 山中裕子氏 (S48 化卒、シミック株式会社) 富田 功 先生 (お茶の水女子大学名誉教授) 桜化会総会・茶話会		【主催】お茶の水女子大学化学科・桜化会 OUCA 【連絡先】お茶の水女子大学 理学部化学教室内 桜化会 OUCA E-mail : ouca@cc.ocha.ac.jp Tel&Fax : 03-5978-5290 (木曜日 10:00～13:00) 【詳細】 http://www.chem.ocha.ac.jp/~ouca/ に随時掲載します。

お茶大ゴーフル 好評発売中!!



- ・ばにら・ちよこ・いちご各4枚入 600円(税込)
- ・地方発送も承っております(送料はお客様負担となります)

お茶の水ブックレット・お茶大ゴーフルのご注文はお茶の水学術事業会事務局まで
E-mail : info@npo-ochanomizu.org TEL & FAX : 03-5976-1478

お茶の水ブックレット



- 第1号「教育と平和—アフガニスタン女子教育支援シンポジウムから」
 - 第2号「国立大学改革とお茶の水女子大学のゆくえ」
 - 第3号「ライフワールド・ウオッチセンター」(在庫切れ)
 - 第4号「生命科学フォーラム」
 - 第5号「現代女性の恋愛・結婚・就労パズル」
 - 第6号「『女性と科学』を科学する」
 - 第7号「家族と犯罪—近しい者の憎悪はなぜ?」
- 1冊 500円(税込・送料別)

評伝『パリに生きた科学者 湯浅年子の肖像』



▲湯浅年子氏

日本における女性物理学者の先駆的存在、湯浅年子(元お茶の水女子大学教授)の評伝が、愛弟子の一人である山崎美和恵氏(昭和20年女高師卒業・埼玉大学名誉教授・お茶の水女子大学客員教授・事業会終身会員)によって出版されることになりました。

湯浅年子は、東京女高師理科・東京文理科大物理学科を卒業後、女高師助教在職中の1940年、F・ジョリオ＝キュリー教授に直接指導を受けるため国費留学生としてパリに渡りました。女性が個性や思想信条に拠って生きることを制約され、学問をすることが困難だった時代、更に言えば人が人として生きることも窮屈であった時代に、年子は情熱と勇気をもって原子核研究に打ち込み、新しい時代への扉を開いたのでした。

自身が物理学者でもある山崎氏は『湯浅年子—パリに生きて』(みすず書房)、『パリに生きた科学者湯浅年子』(岩波ジュニア新書)等も著わし、湯浅年子の志を後輩たちに伝えることを使命とし、ライフワークにしておられます。その集大成とも言うべき本書は、長年に亘って構想され、新たな資料や関係者の寄稿なども多く取り入れて、より立体的に湯浅年子像を描き出そうとした労作です。

第一部「ジョリオ＝キュリー夫妻を師として」では、戦中戦後を通しての研究生活の様子を活写していますが、山崎氏による歴史的背景の解説と相まって、独軍占領下のパリで、ジョリオ教授が積極果敢にレジスタンス活動に身を挺していくくだりには息を呑むものがあります。続く第二部「年子の立体像を求めて」では、科学者らしい鋭い観察眼と豊かな芸術的センスとによって書き残された日記・書簡・詩歌・スケッチ等を豊富に引用しながら、年子の内面を分析し、第三部「回想」では、日仏の研究関係者や親族・知友・後輩らによ

る思い出話や様々なエピソードの紹介を通して、年子の人間的な魅力を浮き彫りにしていきます。

折りしも今年は、日仏文化交流150周年にあたり、日仏両国で多くの行事が計画されていますが、フランスにおいては湯浅年子の肖像を印刷した記念郵便切手が発行されると聞いています。東京上野の国立科学博物館では、来る3月22日から展覧会「なでこたちの挑戦」が開催され、その最も広いスペースをもって湯浅年子が紹介されます。

そして2009年には湯浅年子の生誕100年を迎えます。日仏で年子の業績を称える行事が進行する最中に、本書が刊行されることは、まことに意義深いことであります。お茶の水学術事業会もいささかのお手伝いをさせていただきました。広く事業会の会員の皆様にもご紹介してご購読をお勧めするものです。

— 記 —

- ◆『パリに生きた科学者 湯浅年子の肖像』
- ◆A5判上製カバー付き/約450頁 ◆ 予価 4000円
- ◆2008年3月10日発行予定
- 事業会会員特別価格を用意します(期間限定)。
- 詳細は事業会事務局へお問い合わせください。
- Tel & Fax : 03-5976-1478 E-mail : info@npco-ochanomizu.org

国立科学博物館情報

「なでこたちの挑戦～日本の女性科学者技術者～」

2008年3月22日(土)～5月6日(火)(予定)

荻野吟子・吉岡弥生・香川綾・保井コノ・黒田チカ・湯浅年子ら6人の先駆的な女性科学者、技術者たちの業績を紹介する企画展です。この内の4人(荻野・保井・黒田・湯浅)は東京女高師の出身でもあります。ご観覧をお勧めします。

ワークショップのご報告 ～講師幹旋事業

お茶の水学術事業会では、講演会・セミナーの講師幹旋も行なっています。昨年9月には、岐阜県音楽療法研究所のワークショップに、お茶の水女子大学附属小学校教諭の植原和子先生をご紹介しました。

〈音楽健康講座〉からだまるごとで人・モノ・音楽を感じよう

【日時】2007年9月22日(土) 13:00～15:00
 【場所】セラミックパーク MINO 国際会議場(岐阜県多治見市)
 【主催】岐阜県音楽療法研究所
 【内容】コーラス隊「TONO ラポール」のオープニング演奏の後、植原先生が学校で実践されている様々な音楽活動を、参加者が楽しみながら体験しました。

現代の子ども達は人と関わろうとする意識が薄く、こちらから話しかけてもつながりを断ち切ろうとする言葉や態度で接してくることが多いそうです。

そこで先生は、頭で考えるのではなくからだ全体で音楽を感じ、聴き、楽しむということを通して、他者と関わろうとする表現、から

だの声を聴くような体験、声を出して周りと関わることをさせたいと考えていらっしゃるそうです。当日は、実際に替え歌を作ったり、パートを決めて音楽物語を実演したりしました。

参加した方々からは、「子ども達だけでなく私たち大人にもとても楽しく、『音楽というのは人と人を結びつけるものだ』と強く感じた」、「音楽でからだを使って人とふれあい、とてもやさしい気分になった」等の声が寄せられました。

音楽療法に携わる方々にとっても、今後のセッションの参考になる企画となりました。



▲植原和子先生

◆講師幹旋◆地方講演会共催のパートナー募集◆

ご要望に合わせて講演会やセミナーに最適な講師を幹旋いたします。お気軽にお問い合わせください。また、東京都以外の地域での講演会を共催していただける団体等がございましたら、ぜひ、お茶の水学術事業会までご連絡ください。

「女性のための起業入門セミナー」 参加者募集!

女性にとって厳しい雇用状況が続く今日、再就職よりも、自分にあった仕事で起業したい、そんな意欲ある女性を対象にお茶の水学術事業会と文京区が共催でセミナーを企画しました。経験や年齢は問いません。一緒に会社経営のノウハウをゼロから学びませんか。託児サービスもあります。

日時	2008年3月1日(土)・2日(日) 午前9時30分～午後4時30分
会場	文京シビックセンター5F 中小企業振興センター研修室 (地下鉄丸の内線後楽園/都営地下鉄三田線春日駅下車徒歩1分)
受講料	1,000円(テキスト代含む)
内容	1日目/女性が起業することの意義、起業事例の紹介、 起業の形態及び起業の手順、会社経営の基礎、マーケ ティングの基礎、経営戦略 2日目/コスト・採算計算、会社のしくみと商取引(会社 経理)、財務諸表の見方、事業計画の立て方、グルー プワーク(グループ発表、講評を含む)、情報交換・交流会

講師	上條茉莉子氏(特定非営利活動法人コペルNPO代表、 コペルネット株式会社代表取締役、神奈川県男女共同 参画審議会会長)
定員	30名(2日間参加できる方、応募多数の場合抽選)
保育	無料(2歳以上就学前児)
申し込み	往復はがきに住所・氏名・年齢・電話番号(FAX)・お 茶の水学術事業会会員か否か、と返信用にあて先を明 記のうえ、下記へ 〒112-8555 文京区春日1-16-21 文京区男女協働・特命担当課起業セミナー係 ※保育希望者はお子さんの名前・年齢・性別を記入のこと
締切り	2008年2月13日(水) 必着
お問合せ	お茶の水学術事業会事務局 TEL 03-5976-1478 文京区男女協働・特命担当課 TEL 03-5803-1187



”おいしい食パン”って、
こういうことなんですわね。

特撰
超芳醇

いじめから子供を守ろう!
ネットワーク
いじめ相談窓口 03-5750-0779

ブログ <http://blog.mamoro.org> メール kodomo@mamoro.org
「いじめ」から子どもたちを救うためのNPO活動をしています

..... **1周年記念シンポジウム開催**

会場: きゅりあん(東京都品川区JR大井町)
日時: 2008年2月24日(日) 13:00~16:00
基調講演: 渡部 昇一氏(上智大学名誉教授)

【申込方法】 往復はがき 1月31日〆切
往信裏 2/24申込み・住所・氏名・電話
返信表 申込者住所 申込者氏名
【宛先】 〒141-0031東京都品川区西五反田1-29-3-302号
いじめから子供を守ろう! ネットワーク

.....

編集後記 丁寧に手書きされた上柳さんの原稿からは、母校への深い思いが伝わってきました。1本のキンモクセイが経たしを思うと、そのたたずまいが一層深く感じられます。お忙しいなか快くインタビューに応じてくださったチャンタソンさんの夢が、一日も早く実現しますように。「起業入門セミナー」等各種催しへのご参加、湯浅年子氏の評文のご注文もお待ちしております。

広告募集

このページに広告を掲載しませんか? 次号は5月に、3000部発行予定です。会員の皆様はじめ全国の公共機関などに配布しています。広告料金は、1回につき20,000円。詳しくは下記までお問い合わせください。

事務局 **OPEN 月~金 10:00 ~ 16:00**
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学 理学部3号館 204
TEL&FAX 03-5976-1478 E-mail : info@np-o-ochanomizu.org
<http://www.npo-ochanomizu.org>

※会員の方は、お問合せの際、会員番号をお知らせください。会員番号は封筒の宛名ラベルに印字してあります。

◆事務局所在地
東京都文京区大塚2-1-1
お茶の水女子大学
理学部3号館204

◆交通機関

地下鉄 丸の内線
茗荷谷駅から徒歩7分

地下鉄 有楽町線
護国寺駅から徒歩8分

都バス
大塚2丁目バス停すぐ